

第 27 回日本 IVF 学会学術集会

ランチョンセミナー

東京、2024. 10. 5-6

AI 胚評価システムの臨床導入と有用性について

Clinical implementation and usefulness of the AI embryo evaluation system

佐藤学

IVF なんばクリニック、HORAC グランフロント大阪クリニック

胚評価は胚培養士の業務の中でも個人差が生じやすく、主観的になりがちな作業である。評価方法や重視する点は多様で、教育にも相当な時間を要する。観察方法についても、静止画像による一時的評価とタイムラプスによる経時的評価のどちらが優れているかは議論の余地がある。

タイムラプス観察で得られる膨大な情報を全て確認することは業務上困難であり、評価ポイントを絞る必要がある。当院では独自に、第一と第二卵割が正常な胚を最良好として分割期胚評価を行ってきた。一方、胚盤胞評価では Gardner 分類などの形態学的評価が主流であった。

この状況を改善するため、2024 年から iDAScore version 2.0 (Vitrolife) を臨床導入した。これにより、分割期から胚盤胞期までの総合的かつ客観的な評価を目指している。従来のタイムラプスデータを加味した当院独自評価から、iDAScore を第一基準とする評価へ移行し、移植胚選択に活用している。

本セミナーでは、iDAScore と従来評価との関係性、臨床成績との相関など、AI 胚評価システムの有用性について紹介する。

略歴

【学歴】

2003 年 弘前大学大学院 農学研究科修了 修士（農学）

2009 年 近畿大学大学院 生物理工学部研究科修了 博士（工学）

【職歴】

2003 年 IVF 大阪クリニック入職

2008 年 IVF なんばクリニック勤務

2020 年 HORAC グランフロント大阪クリニック 兼務

現在 IVF なんばクリニック/HORAC グランフロント大阪クリニック 生殖技術部門 技師長